

H26 午後 2 問題 2 を評価して

2017/12/30 by koyano

先ず、私が考える、問題文から読み取れる題意と執筆上での留意点を述べます。

設問ア

1. プロジェクトの特徴と要員に期待した能力
 - 1.1 プロジェクトの特徴とプロジェクト組織体制
 - ・プロジェクト(QCD 等)プロジェクト目的は述べる。私の立場(PM)もここで述べる。
 - 1.2 要員に期待した能力
 - ・特になし当然、伏線を張る

設問イ

2. 認識した事態とその対応
 - 2.1 要員の能力発揮で認識した事態
 - ・要員の能力が発揮できない事態になるとプロジェクト目標達成に影響が及ぶ
 - ✓納期の遅延
 - ✓品質未達
 - ・プロジェクト遂行中に、例えば以下の観点から注意深く見守る
 - ✓担当作業に対する要員の取り組み状況
 - ✓要員間のコミュニケーション監視・コントロール中に兆候を掴んだ=認識したとすること。
 - 2.2 立案した対応策と工夫 [ここで具体的に述べる]
 - ・特になしこの対応策は迂回策である。
 - 2.2 対応策の実施状況
 - ・特になし

設問ウ

3. 根本原因とその対応
 - 3.1 事態が発生した根本原因
 - ・特になし真の原因把握をここ具体的に。
 - 3.2 立案した再発防止策 [ここで具体的に述べる]
 - ・特になしこの対応策は是正処置である。
 - 3.3 実施状況
 - ・特になし
- 「・・・教訓として記録する。」で終われ。

◆当該論文作成時の情報

1. 論文作成は、この準備期間で何回目のトライなのか。⇒今回初回
2. 論文作成に、何時間掛けたのか。⇒4時間
3. 論文作成は、⇒初めからPC入力

総評 **A** の評価とさせていただきます。

余計な部分をそぎ落とし、卒なくまとめた論文（内容は一般的で面白みはありませんが、試験の合否には関係ありません）という印象です。一文は長からず適切で、文章推敲もされているので明瞭な文章で、前後関係も整然としています。

多分、幾つかの良いサンプル論文を読み込んだ成果だと思います。初回でここまでくれば充分です。

本試験までまだ時間があるので、リスク/コスト/タイム/スコープマネジメントの幾つかにトライすることを勧めます。一回は手書きでトライし2時間10分台までくれば、本試験では集中度が違うので10分台はどうにでも短縮できます。

平成26年間2 評価票						2017.12/30	
条件	内容	重み	基準		評価	コメント	備考
条件1	1)設問アの字数制限「800字以内」が守られているか				○	問題なし【775】	1つでも該当すれば D
	2)設問イの字数制限「800字以上1600字以内」が守られているか				○	問題なし【950】	
	3)設問ウの字数制限「600字以上1200字以内」が守られているか				○	問題なし【725】	
条件2	1)設問アを反映している見出しか	3	5	15	5	15	
	2)設問イを反映している見出しか	3	5	15	5	15	
	3)設問ウを反映している見出しか	3	3	9	5	15	
条件3	1)ア見出しに合致した内容になっているか	3	5	15	5	15	
	2)イ見出しに合致した内容になっているか	3	5	15	4	12	
	3)ウ見出しに合致した内容になっているか	3	5	15	3	9	
	4)ア問題文で問われている内容になっているか	3	5	15	5	15	
	5)イ問題文で問われている内容になっているか	3	5	15	4	12	
	6)ウ問題文で問われている内容になっているか	3	5	15	3	9	
条件4	読みやすい丁寧な字で記述されているか	1		0		0	pc入力のため
条件5	PMの立場を明確にしているか	1	5	5	4	4	
条件6	1)結論が先に記述されているので分かりやすいか	1	5	5	3	3	
	2)理由が記述されているので分かりやすいか	1	5	5	4	4	
	3)どのようにも取れる曖昧な表現はしていないか	1	5	5	3	3	
	4)設問イ、具体例が記述されているか	2	5	10	4	8	
	5)設問ウ、具体例が記述されているか	2	5	10	3	6	
条件7	1)アの記述量は空行3行以下まで記述されているか	1	5	5	5	3	1空行
	2)イの記述量は最低字数制限の1.2～1.6程度は記述されているか	1	5	5	3	3	【950】<(960)<(1280)
	3)ウの記述量は最低字数制限の1.2～1.6程度は記述されているか	1	5	5	5	5	(720)<【725】<(960)
	4)アイウの各段落の記述量が適切であるか	1	5	5	3	3	
条件8	1)一文が長からず読みやすいか	2	5	10	5	10	
	2)「である」調、句読点の禁則など統一され、最低限の記述スタイルが守られているか	1	5	5	4	4	
	3)修飾部、複文の入れ子構造などを多用せず、気にならないか	1	5	5	5	5	
	4)受け身表現を多用せず、気にならないか	1	5	5	5	5	
条件9	専門的な知識が記述されているか	2	5	10	3	6	
条件10	定量的表現がされているか	1	5	5	3	3	厳密さは問われない
	合計			229		192	
	評価					83.8%	
(A:100～75 B:74～60 C:59～45 D:44～0)							

1. 先ず、良い個所についてコメントします。

1.1 4 ページ目 5~7 行目、「ヒアリングの際はできるだけ本音を聴きだせるよう事業所内の休憩フロアを利用し、リラックスできる雰囲気を作った。」

⇒ここは良い工夫点です。

2. 次に、マイナス要素の強い個所についてコメントします。

特にありません。

3. 最後に、チョットした表現でよくなる個所についてコメントします。

3.1 “人的資源マネジメント計画書”に記述しよう。

⇒ PMBOK 流に解釈すると、人的資源マネジメントは、チーム編成プロセスとチーム育成プロセス、チームのマネジメントプロセス(ここでは注意深く見守る)の活動からなります。そして、この進め方は人的資源マネジメント計画プロセスで計画書にまとめられます。

2 ページ目 4~11 行目、「(1) 能力が発揮されていることを判断する観点」で記述している内容は、チームのマネジメント(ここでは注意深く見守る)の活動になるので、”人的資源マネジメント計画書”に書かれてしかるべきです。

(1) の最後に以下を追加することで、あなたが専門知識を有していることのアピールになります

そして、このことを人的資源マネジメント計画書に記述し、チームメンバーとも共有した。

3.2 2 ページ目 29~30 行目、「機能間検討チームのメンバの選定にあたっては、B 社 C 社の要員と円滑に意思疎通ができることを重視した。」

⇒設問及び中見出しに「立案した対策とその工夫」とあるので、ここは協調したい。

例えば、以下の様に加えるだけで、読み手は納得します。

工夫した点は、機能間検討チームのメンバの選定にあたっては、B 社 C 社の要員と円滑に意思疎通ができることを重視した ことだ。

その下の文の”具体的には”はよいですね。

3.3 4 ページ目 7~10 行目、「「自社以外のスキルや考え方、性格が把握できず話しにくい」という声があがった。特に C 社の要員は A 社のプロジェクトに参加するのが初めてであったため、B 社よりも顕著であった。」

⇒この表現で止めてしまうと、”ヒアリングで状況把握した”だけと読めます。

例えば、以下の様にダメ押ししたらどうでしょう。

根本原因は、B/C 社の要員間の情報共有不足と信頼関係構築不足にあると、私は判断した。

3.4 4 ページ目 15 行目、「オンサイド・オフサイド双方で対策を実施した。」

⇒オンサイド・オフサイドという用語は、オンサイド・・・勤務時間内、オフサイド・・・

勤務時間外という意味ですか。こういった使い方一般的なのですか。

そうだとしたら、オンサイドの説明と同様にオフサイドの用語も使用したら分かりやすくなります。例えば、

また、**オフサイドでは**各工程の終了時に懇親会を開催し、相互理解の場を多く設けた。

オンサイド・オフサイドが御社の用語なら、別の言葉にするのが良いでしょう。

さらに、B/C社の要員がコロケーションの環境で常時あるいは頻繁に作業することを、1.2項で触れておくと読み手の理解が早いと思います。

以上